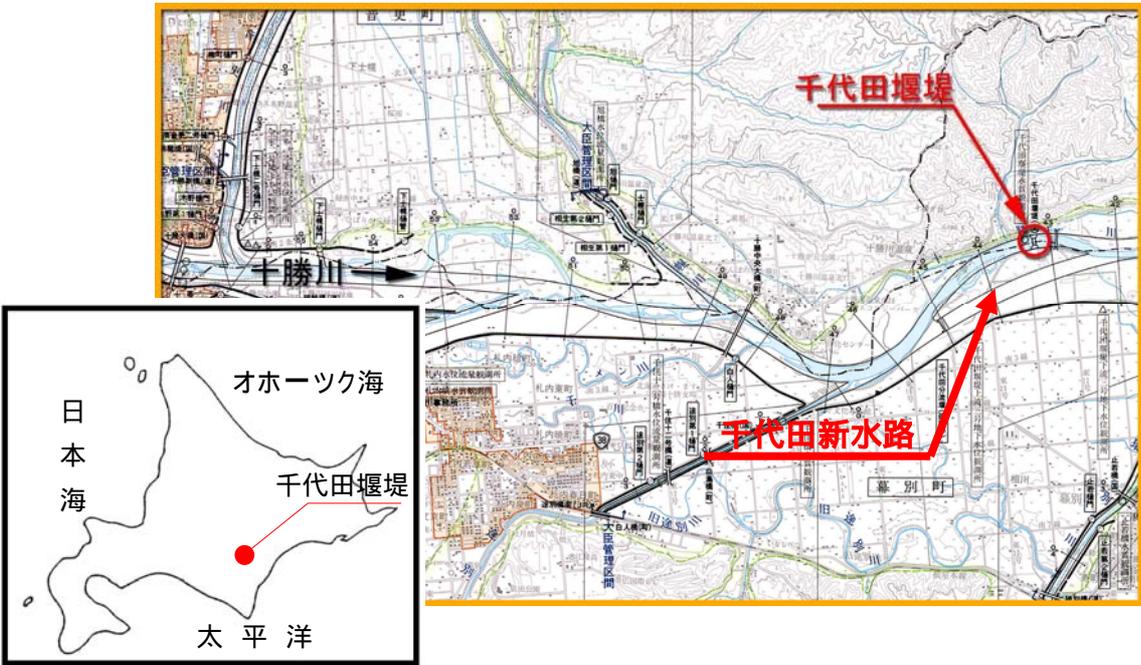


観光社会資本の事例

テーマ	千代田堰堤と千代田新水路
【施設の状況写真】	
	
<p>下流側から見た前景です。堰堤から流れ落ちる流水の壮大な風景は大陸的な風情を感じさせます。</p>	<p>千代田堰堤と千代田新水路</p>
【施設の利用写真】	
	
<p>流水の壮大さを見ようと、観光客が訪れます。</p>	<p>釣り、サイクリング等の憩いの場となっている。</p>
【観光資源としての利用状況】	
<p>千代田堰堤は、治水と利水の目的で昭和10年に完成しました。現在、釣り、サイクリング等住民の憩いの場となっているほか、秋にはサケ遡上及び捕獲を見るために観光客が訪れます。また、平成16年度には土木学会推奨の土木遺産にもこの度認定されました。この千代田地区において洪水時に流水を分流する千代田新水路が建設中。</p>	

テーマ	千代田堰堤と千代田新水路
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 千代田新水路</p> <p>所在地 北海道中川郡幕別町、池田町</p> <p>事業名 河川改修事業</p> <p>事業主体 北海道開発局</p> <p>事業期間 平成7年度～平成18年度(千代田堰堤は昭和7年～昭和10年)</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>治水効果</p> <p>千代田新水路は、千代田堰堤による流下能力不足を解消するため、右岸側の高水敷に新たな低水路を掘削し、新低水路の上流側には分流堰を設け、通常時はゲートを閉めて現低水路に水を流し、洪水時にはゲートを開けて新低水路にも水を流し治水安全度を向上させます。</p> <p>実験・研究等への利用(千代田実験水路)</p> <p>実験水路構想は、新低水路の一部を活用し、その水路に疑似洪水を発生させて、実河川スケールでの様々な実験・研究を行う構想です。</p> <p>精度の高いデータは、今後の河川管理に関する行政課題の解消に役立てる計画です。さらに、実験・研究以外にも、洪水体験、防災訓練等への利用も計画中です。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】千代田新水路事業 http://www.ob.hkd.mlit.go.jp/hp/tisui/t2.html</p>	